朱六癡陰隱逸傳 平賀陰隱作

稻葉文庫

雲井庵

風来六部集

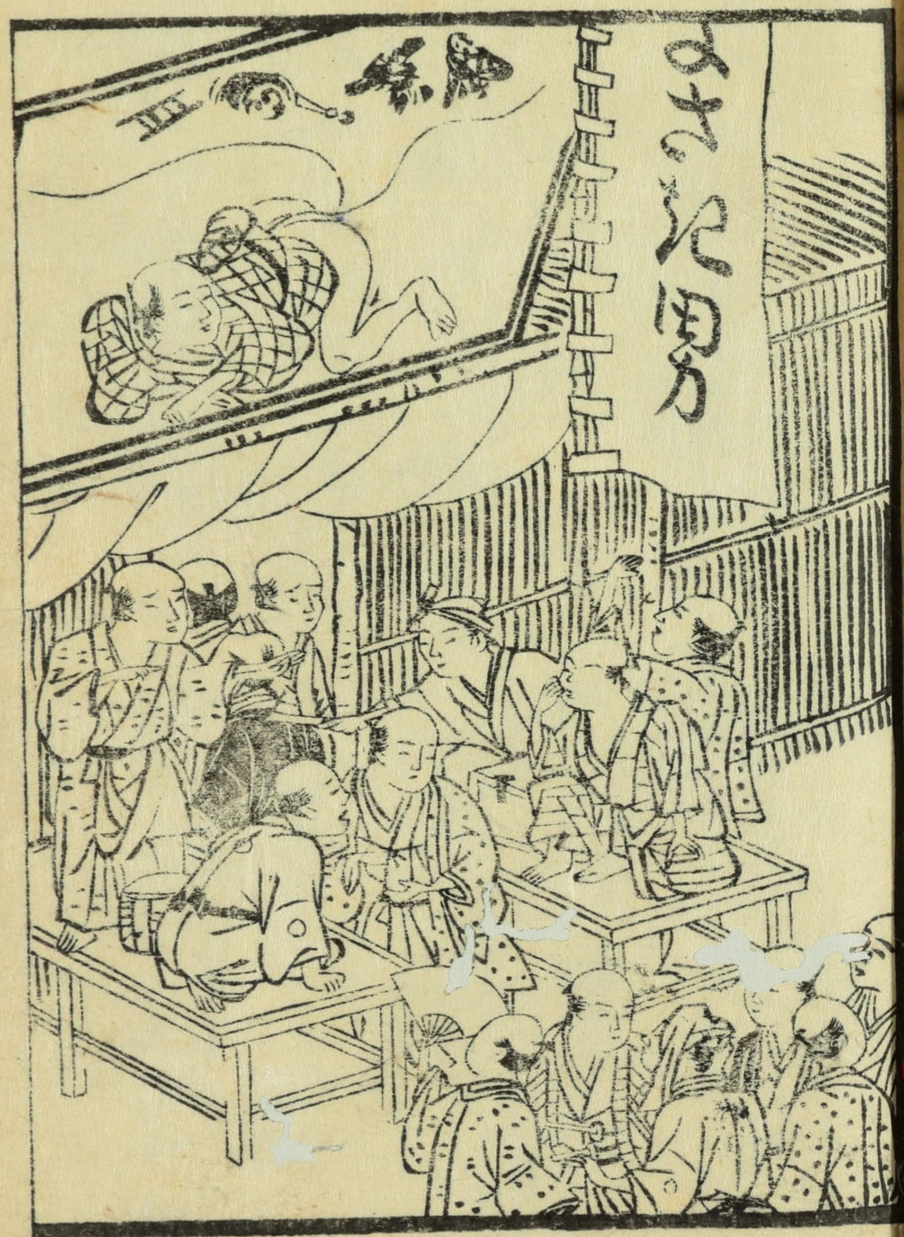
東武書林　大観堂板

妖屍論　同序跋　癡絵図逸伝
里のおさな　発端の評　天狗弱点暨定家縁起

風来六部集序

時ふ遥ざれい孔子をおもふ義ノ
まゝ管仲が勲労を触所人事の
権会の揚詰とゝ遂に斎国よ
おゝんとの予が先師風来山人
名音書のほ採銭踏失て天空

浪人となりより塗店の水桶に濁
醪れよの酔を醒しかたに酒
屋を酔さ酔ざめの世おもひ出
ぬ幸に書ざめ世おもひ出ぬ幸に書ざめ世おもひ出ぬ幸
頃日書林を乗肢を撫て憤
ず且ちよ郭公旧
筵ありの儘と題して
今て二巻と成ぬ是を号て
六歌集と新す全く残灯の
書を入れ人へとまるべし
會刻の二部を校施



于時安永九庚子年五月十日下界の
隠士天笠主人
しるす

東京都立中央図書館
加賀文庫

放屁論自序

屁てふものある所ゝへの字を何と書
をの一ツ也ど天ハ霹靂(ヘキレキ)の神ゟ幣
帛(ハク)あり誓ヲ鍾(ヘヲ)弦有ゝ私ゟ艙(ヘサキ)あり菓ゟ
女蕚(ヘクリカヅラ)の利ゟ法に氣擗(ヘッピリムシ)あり狐(キウネ)の嫩(イタチ)
姫(マヘ)屁を一生懸命(ケンメイ)に敲(タヽキ)を防(スセ)ぐ人ゟく
放(ヒ)ざんバ獣(ケモ)よざと如(シカ)ざる屁ゟや放(ヒ)り

嚔(カヒ)ざり屁ゟる君子(クンシ)ありとゝくば漁(アサ)
ちまち姚(ヤ)し去ぬへゝゝ今評判乃
撥氣漢論(ヘッピリヲトコロン)ゟり使授(ヤウ)て両國橋

風来山人誌

放屁論

人參呑(ニンジン)で鍾馗(タベテ、ショウキ)の癪漢(ケ)の如(ゴト)し。河豚汁(フグジル)喰(クッ)て長崎(ナガイキ)をする男(ヤツ)と一度(イチド)で父(チチ)と呼(ヨバ)る子孕(ハラ)む不女(イバン)あり。毎晩(マイバン)歓喜(ヨロコビ)笑(ワラ)ふて鼻(ハナ)の垂(タ)る奴(ヤツ)あり。大(オホ)そふあしと嗚呼(アヽ)天命(テンメイ)なり。又物の流行(ハヤル)と不流(ハヤラザル)を時の仕合(シアハセ)不仕合(カウ)なり。又ハ趣向(シュカウ)の善悪(ヨシアシ)によるならん。

栴檀（センダン）は双葉（フタバ）より芳（カンバ）しと。幼（イトケ）なき子（コ）を見（ミ）ても。将来（シヤウライ）の事（コト）を察（サツ）し。仲業（チウゲフ）が功者（コウシヤ）なる。金作（キンサク）が愛敬（アイキヤウ）。慶治（ケイヂ）が利口（リカウ）。関子（セキコ）之助（ノスケ）が志（ココロザシ）。梅幸（バイカウ）浪蔵（ナミザウ）を初（ハジ）め。十二（ジフニ）の年（トシ）。浅草（アサクサ）川（ガハ）の業（ワザ）。浅草（アサクサ）弘（ヒロ）むしバ。住（スミ）た吏（ヒト）ハ蓄（タクハ）へ。富（トミ）と栄（サカエ）を極（キハ）めた。橋場（ハシバ）の隠居（インキヨ）。髭（ヒゲ）を捻（ヒネ）る武（ブ）ハ機関（カラクリ）。鼠（ネズミ）と化（バケ）る盗賊（ヌスビト）。仮（カリ）染（ソメ）の縁（エン）ハ末（スエ）迄（マデ）も。切（キ）れぬお江戸（エド）の繁栄（ハンエイ）。乃（ノ）ち。

辻（ツヂ）渡（ワタ）し。今（イマ）にも。雨（アメ）降（フ）り出（ダ）しそうな空（ソラ）模様（モヤウ）。急（イソ）ぎ足（アシ）に帰（カヘ）る人（ヒト）。小走（コバシ）りに行（ユ）く人（ヒト）。荷（ニ）を担（カタ）ぐ者（モノ）。傘（カサ）を持（モ）つ者（モノ）。いつもより。往来（ワウライ）の多（オホ）き中（ナカ）に。さいつ吹（フ）き。ふいつ吹（フ）き。両国橋（リヤウゴクバシ）乃（ノ）ほとり。浄瑠璃（ジヤウルリ）町（チヤウ）。薬研堀（ヤゲンボリ）。

よ。お厩（ウマヤ）男（ヲトコ）。ヘッピリ腰（ヲトコ）。北風（キタカゼ）吹（フ）ハ。人（ヒト）ハ小天地（コテンチ）なれバ。天地（テンチ）雷（カミナリ）のごとく。人（ヒト）を厩（ウマヤ）へ。おしこく。時（トキ）ハ霰（アラレ）。時（トキ）ハ霙（ミゾレ）。時（トキ）ハ雹（ヒヨウ）。撰（エラ）ぶ所（トコロ）なく。持（モ）ち来（キ）たる。雨（アメ）の降（フ）ハ。傍（ソバ）へ。階子（ハシゴ）。宗隊（ソウヅ）。

べ積ハふしもさゝもり。樵をぐき三番叟三ぎ地七
艸祇園囃。イヤ十キコへ六ツべ。鶏鳴。尤犬の吠声ハ
あ母を歌さ。水車ハ浪ハ音ハ浪ハより擬を。笛吹る
菊慈童。そくさゝもり。ゆを伴勢高砂。一中節
中巻ノ部。土佐丈流水車を更。外記河東大薩
摩。義太夫芸妓出ざるゆへ浪花ハ
浪曲。一指ツ三絃浄瑠璃よ人丸比叡おき名人

出ようとゆをうつ見ぬるハ出よりいさゝ
てこだやとて三三盤おり連て横山町うあ
両橋の廣小路橋を渡ら左へ折ハ昔猿
若芝居ことぐく一ー焼ケ跡ハあやしの
合番一合中うつ矢倉板を見しばやー
男風とたてる浪花ハ渡ゑて波乃花
三番叟ゑんど数多の糸を一斉よ素て画ける

さま。美を画く筆さま似てゐるが。山水花木。鳥獣。人物。家屋。舟車。着物の柄。来掛りそくさまざまの事を写すに。上よ紅白の水引き波瀾濃淡。暈しぼかしなどやさなか〳〵本式をとゞいるとも。艶んと。そが中肉みて。仕よかるさ和よ。その為人中肉みて。色白く。三ケ月形の揉髪奴縞の着よ繻子の襦袢。廿日の夜半。上爽みて。悩ましく。嬶よ今を。

先宮神ぐ同お夜二寄更。ベ。トツハヒヨロ〳〵ヒワ〳〵くと。扣ようく。次ぐ鶏東天。ブ〳〵ブウーブウと。撥ぐ。ア。ぐ。ぐ。ぐ

を用く放(ヒル)といひ又ハ仕掛(シカケ)の有(ア)るゝんと疝気(シャウキ)さらよ一決(イッケツ)せず予(ヨ)斯人(コレカウ)よ告(ツゲ)く曰(イハ)るゝ事ハ家嘗(カツ)てこれを知る大抵千種(クサ)屋活(イキ)ものと云(イヘ)る者をゝ一き茶を煮(ニ)が好(スキ)よて喧嘩(ケンクハ)ハ屈(ヘ)り茶等(カン)の皆板(ダ)ゝ出(デ)も平茶方も吸(ス)はれどもそれハ只屁乃出(デ)るのこゝろく仕掛の曲(キョク)ゝを放(ヒル)ことをゆずゝ又仕掛の

らんとの鋭(モトメ)ひ老(ヲイ)ゝ組(クミ)ゝれども。所(トコロ)ゝ舞(マヒ)ゝ蓋(ブタ)ゝする者(モノ)ゝ。此方(コナタ)ゝ面(メン)のやうでもあり。何(イヅレ)ゝ仕掛の有者(アルモノ)ゝともえゝ。数方(スウホウ)ゝ人の国よりし。仕掛乃(ノ)ゝ大(オホ)ゝなるハ製(コシラ)ゝ仕掛ゝとゝゝと言(イヒ)ゝよひるゝ回(マハ)ゝり。成人(オトナ)ゝまて放(ヒル)ゝといゝで。糟(カス)ゝを含(フク)ゝひて泥(ドロ)ゝを漏(ヲラ)ゝし。数(スウ)ゝと思(オモ)ゝて見(ミ)ゝる可(ベ)ゝし。掛(カケ)ゝ物(モノ)ゝをくゞし薬(クスリ)ゝぐれハ。

世智辛き世の中なれども人の義をせんと勉
百代も易業なく新たひらけと工夫する十が十
降の形ある新しき事を古く固有とハ
況古一此故屁男弁ハ始めは有といへども
醜見るもの多し我 日本

神武天皇元年より人皇三十六代孝安天皇二十六年まで 日本

紀記ものこえたいひ傳にを色。書 日本
のこなのくび。庵主朝鮮をもつて。天竺阿蒙陀
請の通しにをいるまし。於戯也ひ分さう線。
放ちうし愛れバ一文発皆感心を。遍未発
ちう夢を掛先生の論を服する。尓中べき
ものとも多をそ色ぶ。ハ百更をより尊する。
石ハ金石斎といへる結あり。ひのかせ都魚な

て。抱く若き妻を取る抱うな。それ芝居見る
ごとく勢。公よう御免ある八人をまも
るれ御み。君臣父子夫婦兄弟朋友
の道をなう。罪八大悪罪良かう仕打ち。
悪巧の企と成。抱抱ぎ合の隣の猪八。女の操を
もてもるあり。見せるのも夫婦なるも親の恩
ぎみの報ひ。狩人のみか隣と成。悪の報ひ針

の先ゆ人く油断をるまの教をるまの。近年八
只残るよけのそこに掛り。ケ程の事へ人を用を割
屁ぴり男の見せ物。云語道断乃一とあり支度
八人中まで撮りのよりらばて。放すべき者
て。ゆ笑てそうそぜ。武士八腹を切れ死
とん。俗へ中。西川みくに仇とうらくる女。実の兄
にそうそづせ。を成る小田原町乃事

堂堺町の己れんど居合て。笑ふよ。彼女恩び
勇一百へ入て自害せんともるよ。傍輩の女ども。一死が女の通り者なれ
身さまぐ〻は涙にまいひ〻〻さられ。世上のお法よ放なれバ
バ。男ルは
どうも活てハ居〻まぬとのせりふ。彼二人も迫
と見〻。ぜひ決ていまいまいとひさ〻〻
るござむとど。イヤ〻〻今こそ名よ清びやへ。

御よていひまりんハ浴室活て。配をさ〻〻さんよりハ
死せてたび玉へとおさんごさでまるれをかく
ざれバ二人もをべき方なくて。しるひ外せばし
さよ〻。論文を出て。傍自害をそめーとも。
可咲るのれるれど。女ぶ自害と見抜せー八。
性を南の身の上ふく。配を知て令を指んと
いひ。又いさる此通者と。側混のんありてお

ばあなく、徒文書くの命を助く。又乾
きうをもとめ、人乃死をまもる。大道端
に筒板を掛。元人の目をさす事。並歌子等
よきよの。足るものハ銭こそなけれ。鈍漢な
ことゝ先生雷同しもの。又渇り果ると
るやく。温泉の水。猪熊の地皆生名をさく魚
むなり。飛禽走獣ことなれ。誰後見ることなれ

とハ聖人の教うるく。まず節をもつてのいひぶん。
孔子答て曰ふ辞意是
大なるをもつず。孔子ハ童僕をも
屁ひりを云ふ海あり。玄のがいすぎ道の
皆自然上下の別なく中に居り極り。
下ゑとをるもの。大小便ゑ出る物を旅を
漢よてハ糞土といひ。
日本よてハ屎のごし

と。そを糞小便のさまさも。皆ゴ穀の肥とありて。万民を養ふ。兵屋のこと撰ぶ者。醫術の腸中快さ斗よりて。益延命の長ものあり。上天よりと八音もなく香とありてよろづ。書あをごとも。おのれ敵敵のごとくすべきさりのよりて。匂ひわれども伽羅麝香のごとく用べき能あり。都て人も臭ぐ。也。韮蒜握屎とは乃堵まりの空ら。空ら出ること空より消肥よさへあらざれば。微塵用よろこととなり。志道彰が腐儒をさして。屎ぶ等の徒あり。我ぐ儒者といひ神一と。玄ふ等の徒あり。我ぐ天地の間よ処用のものと成果て。仇の用にも立ざるものを。こやつめが也ひ舟よて。移ぐ小案ぢさまぐよ撰ぶけ。淨刹の大人小芝居なんどは瞰べき物あらじ。富二ノ八が大当りハ。菊

亜ぐ隊党も有。屁よハ困仮定をなく。惚人を
ゐ〳〵異願をれし。実ま未云味むさ物の
表紙務願二寸よ号くぬ屁眼まて。清のい芝
居を一まくりよ撒涙もる。時屁威光とハけるよ
まて。地にでいへバ屁柄者くされバ備の音曲者。い
よべき筈の口説べき筈の間をいく。師匠よ通
ひ俗を待る話全ハかりくれども。声のよう
うう生れ有。有亜雁やる位醐るれ。ありくと
まるがくく。古き節の口ま手ハ
文句よ意なく。序破急完合芸たらせの陰楠
をもくざれバ。彩俸弼隔の文句を教一。面く
家業よ衰微よ及ぶ。然るよ山屁刻り男を。
自才の工夫斗して。師匠をけ並バ俗をれ。
おいなぬ屁ゑる半くき屁よて。完合呼吸の

拘子を受。五音十二律自侭り。ゆるくを撥剌る。
ゐ。ヘタを淨瑠璃のはりを。尻のきどりが抜群よ。奇とやいふんぬとやいふん。誠よ屁。
近宅基の祖師く。ゆ一吉曲のこゑ添ふも。
近年のヤ子糞どもも。学者そ庵の反古よ紙らも。詩文章をよむ人ハ。韓柳盛唐の絶屑を拾ひ集くゐと仏る。奇人ハ再おかう

紙粒が空の裏ふひるく。仆。醫者そ古法家法世家と。漁無慶の談論を癈一拘ぜ。流行風の皆教一。誹諧の宗匠ハ。芭蕉其角が延をくこと。利休宗旦が糞を聾る。ゆ狭法藝皆衰へ。己が工史を受子るさへも。古人のそふ一ることなかへとそ、かざるハ。

るが有り。ゑうなよ。以放屁漢。今を男奴醫(ヒリヲトコ シリ)
ふく。古人を撓(ヒル)ぬ曲屁(キヨクベ)をもり出。一天下平
名を取(トル)を。洛平(ラクヘイ)が曰。我もつく天下に享(サイ)こう
志めば。又以肉(ニク)のごとくの。我も亦渭(ヲモ)く。其(モシ)賢人(カシコキヒト)
ありて。以屁(ヘ)ごとくまをこうし。天下の人を
叙(ヂヨ)ぶ。其功大(イサヲシヲオホニ)なりん。を男(ヲトコ)く疲(ツカレ)を生(ウム)ば。
屁さへも粗(アラ)くのぼ。呼(アヽ)悲(カナシ)世よ志人。或を

洛(ラク)平(ヘイ)と学ぶ人。一ん(イツ)よ物(モノ)生(ウム)ば。天下ふ(フ)ん(ム)る。
屁(ヘ)ろうを不志し。一(イツ)。春(ハル)ハ被(カブ)屁の毒を貸(カ)りく。
自暴(ジボウ)自棄(ジキ)不出精(フシユツセイ)の人くは。日(ヒ)暗(クラ)を寤(サマ)さ
ん為(タメ)なりと。いのち又理屈(リクツ)奥(オク)一(イチ)ろう(ロン)論
屁のごとし。といえども。家も亦屁ともあり
とび。

放屁論終

漢(カラ)ふみに放屁(ホウヒ)といひ。上方(カミガタ)にて屁(へ)をこくといひ。
冥途(クワントウ)にては訪(オト)ずるといひ。女中(ニョチウ)詞(コトバ)にて奥(オク)なる語(コトバ)をもらすといひ。
いづれも語(コトバ)を異(コト)なるまでにて。その意(こゝろ)に二等(ニトウ)のつゞまりあり。
みな屁形(へがた)なり。漢語(からことば)に矢氣(シキ)といふも。
屁形(へがた)の傾(イヒツ)きて形(かた)なりスルをいふ。

殊に長くして動もすれば是等の小児を老
ま撫る事あり。彼放屁男のごとく。奇々妙々
なりて小放ざる者なく。依て其形状を称いふ
ある哉ぞと尋ば。彼ヶ母老て羊を好むゆゑ或夜
牡羊を。大吹井を呑とこそ懐胎一。屁屁之
年への之融嵐の第。今を妻子と楊角の
吹誕生せし成人ん迄。終く功を屁

ゐり男ゲ江戸中の大評判。屁ハ身を助
るとは是等ん乎神田の寓居ま筆談揉る

敎屐論後編自序

僕学(ぼくがく)未(いまだ)生(せい)四旬(しじゅん)。夜(よる)ハ抱(いだ)よる外上略(そとじょうりゃく)

して書(ひる)と、諸人(しょにん)と寐(さま)ざ。小夜

をされ屐(ひる)を撥(ゆく)かず夜(よる)員(ひろ)の倭訓(やまとことば)

起(おき)ず。或(ある)ハ鮫(くじら)浅(あさ)き所(ところ)ニ来(きた)る

内潮引く海を泳ぐ時は大に困り
て急に空気を吸ひ撮みて潮の引くを
干とよぶ。是を好ませ動かす神と。
蛭のとひえびをとよ。えび多ハ
へびその百遠くて。あいうえおを。

ひふへほの通韵より語り。
又日本武尊の東征の時。東
どもをとりけ。大勢一度よ
尾とまりて掛れバ。その多一
吹螺。法螺貝よ大抵らんとする時。

法羽をぬいて投げつぶす。夷の脅
をまもるよう切りれば逃げ去る。
逃るるをへきえきとひ追ふ事なかれ。
えき消益ありて。戻渡るのみ益あるをいう。十束の赤劍
をぬき奥蒲乃簀劍を号のみ。

奥き物を蒲ちらせといふ詞こ。
大汝のうち盛ハ大の病を出ひ。
初ハ吾鳥を痛まるを欲と
浸せバ。尿時ハ湯となる。後ろ
大ある池を掘。加茂川のみを堰

へ這めくれるまで大激しく頻よ
庭を掃いてよう庭池の大わと美名
せられ。記せ。記せ。記録を庭池掃除と
いう後世手ごろと書いハ當字なり。
まこと未だ雑々伊豆のまへ
方邊の地。貧乏芋飯
を食。なんで好む庭もされる者も
所とひるが小鬼なもそう。無くて好
と無べ庭池をそうじ掃と出よと。
古き集の歌

まゝ
まゝ
まゝ

世の譏(そし)り尽(つく)るも浪人の習(ならい)にて御頭(ごかしら)の伊勢(いせ)の命(みこと)。風俗(ふうぞく)太平紀(たいへいき)の日本(にほん)武尊(たけるのみこと)など。津波瑠璃本(つるりほん)まであるる時。さる浮世草紙(うきよざうし)ならず。くさめれども。美人(びじん)血臭(ちなま)い時(じせう)芸(げい)のうまくつかぬ治(なほ)る時世(じせい)なり。そんな事(こと)は。どうでもあれ。今時(いまどき)の浪人(らうにん)は。紙子(かみこ)羽織(はおり)に破編笠(やれあみがさ)

倅(コセガレ)より孫も倩(ゴハン)繁昌(ハンジヤウ)致(イタ)し居(ヲ)れば。老(ロウ)の上(カミ)なき。但(タヾ)浪人(ロウニン)の子孫(シソン)なれども。春(ハル)さへあらば。花(ハナ)見(ミ)酒(サケ)。秋(アキ)は月(ツキ)見(ミ)酒(サケ)と目出度(メデタ)徳代(トクヨ)の住(スム)ひ所(トコロ)なり。工農商(コウノウシヤウ)の三民(サンミン)よく業(ワザ)を勤(ツト)むる素餐(ソサン)の報(ムクヒ)ならん。まさかの時(トキ)ハ侍(サムライ)ぐるみ。なれバ世(ヨ)ハ治(オサ)まるとも。日本(ニホン)ハ小国(セウコク)でも唐高麗(カラカウライ)迄(マデ)指(サ)もさゝせぬハ。皆(ミナ)武徳(ブトク)なりとぞ。

偖(サテ)も太平(タイヘイ)の世(ヨ)の御恩澤(ゴヲンタク)。井(ヰ)を鑿(ホ)く飲料(インリヤウ)にて食(クラ)ふ。掻燈(カキアカ)し借(カ)りて礼(レイ)をいふ。皆(ミナ)是(コレ)等(ラ)なり。然(シカ)るに左(サ)ハ思(オモ)ハず一統(イツトウ)金銀(キンギン)のこと。国(クニ)の為(タメ)ハ命(イノチ)も進(ス)ム。義(ギ)ハ金帛(キンパク)より重(オモ)しと。踏(フ)ミ堅(カタ)く。命(イノチ)ハ塵芥(チリアクタ)より軽(カロ)しと。踏(フ)ミ堅(カタ)く。高名(カウメイ)を願(ネガ)ふ家柄(イヘガラ)の子孫(シソン)でも。又君(キミ)を諫(イサメ)。万民(バンミン)を教(オシ)え。国家(コッカ)の

礎と堅めせんと。心を砕く忠臣でも。算盤の相多
き今と見一番沢早急よ金よりねバ。二一天作
言語道断。六波が二進。雪隠が決ちん。究乃
せまい仕送う用人よ。家越主。和ハおあよ由断
ある数代出入の町人でも。ふあ名よちんバ妻く
あーらの略今日まてよ代なし。身季
那うの感よでも。今きく指で退屈新春

侍望務侍安全様の字までとひねうり
出ーくこよお願うハ地獄のかけも今ら寺
今う敵の世の中。されバ敵今う
ないゆる証ーく。今ぐあるう証ハくらじ
ぐれる分てる今のうーよといつる下の句
ハ。いづれの幼うも連属うると畏労千万う
覚え。富士鼻が挿入も。今の能芸かう

いみあよ。なる事ぞえんのは斗まるもと。嗤る所へ
因のつゝ世の中。はらさる事まで。眤くと不
めいえんよ材。一家中。論の秘事を止まて
珍の秘る古が初つゝ。ものゆ。よくゝなけど。
雑とゝみ字ハ今を篇よ者とゝみ字珍ハ今篇
よ。今ゝとゝみ字もあれバ。半ゝのを止ゝて。
ゟゝ今ゝと今よゝと。あて字なるゝも今ハ

黙止がゝ。いゝるゝ名人達人でも金るきゝ
底生ハ度ゝゝゝと。併もあちゝむくとゝえ
えゝり。いつのはよゝみゝえん。江戸秋田の名
よ貧家銭内よゝつる男る法もあき痩浪人
あり。抑彼が系図も永くも天児屋
根命の苗裔。大織冠藤足公のゝよ。義泰
次海公。讃州志度の浦まて海士と野合

かの面向不背玉を採ねるなれば。一日を六十里と
で人ごとに傭れ。傭人ごとに引よせられ。戯場ごとに
と。誰もが仮者のごとく。仮者の浦人の嬉流ごとく。毋妻と
淫風扇を呑とごとく懐胎しぬ者と産し
よう。貧乏神と称ぎ。七福神と喧嘩
しごく。故々をもて江戸の住居されば読売

弐百石。参百石ごとくもぴ男
の一ツ覚ごとくもなく。又参勤もあろ
ざれば。どちらぼたごとく洋の磯まも
ようごとく。流れの瓢箪で。
鰻の樺焼鰻鱓魚を欺き見識八吉原乃
天水桶ごとく。智恵ハ品川の雪隠より
も浅しと。こみおどの駄味噌を千人ま一人

八実(コト)と呼込(キコ)ぐ教化的(ハッチボウズ)の報謝米(ホウシャマイ)でも抱(カエ)
とお徠(メウダン)それバ。イヤく女ハ美(ビ)敷(アダ)とるく官(キ)へ入て
如(ゴト)れ士ハ賢不肖(ケンフセウ)とるく朝(テウ)へ出(ニ)ますは。
比喩(ヒユ)とるでヤきふるく。孔雀(クジヤク)綿鶏(キンケイ)鸚哥(インコ)の
類(メクヒ)。高金出(モテアヅ)して弄(モテアソ)ぶ。外飾(ミエ)のよいぞうで。
るも捕(トラ)らぬ。晨(トキ)も司(ツカ)らぬ。蔑(ナイ)ゴ(ゴボウ)千(センギ)万の
おまゝもあるぞ又烏(カラス)の男(ヲトコ)ぶりハ悪(アシ)けれども。

勢(オキ)ハやまく起(オコ)るく人をおこし。吉凶(キツケウ)と献(ヨ)ありて
預告(アラカジメツゲ)あるもの。いまゝくしい鳥(カラス)ぬのと。悪(エ)まるくをいふべきと。烏鳴(カラスナキ)ぶ悪(ハシ)ひ
良薬(リヤウヤク)ハ口(コウ)に苦(ニガ)く。虫(ムシ)る杭(クヒ)ハ打(ウ)るひ。されど
も忠言(チウゲン)耳(ミヽ)に逆(サカラ)ふ。君(キミ)ハ聖(ヒジリ)ならずば臣(シン)ハ直(ヒヾ)ならず。
八幡大名(ハチマンダイミヤウ)を高(タカ)冠者(クハジヤ)。脱(ハリ)活(ヌキ)の虎(トラ)見(ミ)るなり。
已(ヲノ)が性根(シヤウコン)ハ微塵(ミヂン)もなく。風次第(カゼシダイ)で首(クビ)を振(フ)

て。一生とるにさんハ。お角親の産付き。辛丸を
もとる。貧理。浪人のん易さ。一筆乃
娘つけ一瓢の小酒。恒の産みき代々。
主人としき贅もなく。知行といき飯粒が足の
裏よむり附ぜ。行灯を駈めぐり。否なお
ハ茶みーく仕舞ふ。せめて一生を初體を。
自由よとるがあうけるう。形儀するを幸よ

種くの工まとめぐーしく。仙幸　日本の金
銀を。磨阿蘭陀へうれなくられぬ。一つの助よ
もならんと。ふもいぐる仕事ぐくせあ
てハすまの　囲思を報ずるといもやら
くさー。生位よあくおれバ手敵を拵ぐぞ
男の往ぐあ大呆と。己もなくハ居るよ
るれど。夢多食の蟲も好くと。せれ生るも

四國八十八所
同行三人

伊豫國三十七番画

不拘好る堪うまく。楊の下に力枯
れ骨つけのまゆ名れきて居せるり
てはとくいへる人の體より火を出し。病を治
する器を作り出せるり。折に當ハ西洋の人電
の理を以てく考。一旦工夫ハ付名れども。まゐ
の生涯みぶの成くべ。三代を経てく成就し
るといつり。此等拙人といへども有る者ハ云て

おく。固朝鮮唐天竺二の人ハ夢まも知らず
日本開闢以来創く出まるまれだ。高考
の書を初めて或日云々の傷寒。石舎彰名れ書とある
人ありて。觀るまゐ良くて曰。天地人の三才
よ通達するを傷と云ふ。永天下の書よ眼玖
さらに理を以く推を時ハ森羅万象明

うるうざるそのべうそぶ。今宵を
ふくる始て寒く。それ燧と石扁柏と扁柏
お激するを。又ハ日輪の水精硝子を照し。
或ハ鏡ニ映ずる時ハ火を生ず。時の臨て乗
目うつも出散うつも出。抑又爨する家内へハ。
火の降るもとハ云ども。かるるものゝもも
よふぞ。いうる理ありて火出るや。後学の為

ゑんと。を射る人うち驚き。書を読年を学問
とそ。紙上の空論と記く格物窮理とそ
ようの百遠も出るうう。さらバ火の出る根元
をお目にかけんと。元出を小冊よ。昔語花咲
男放屁論と影考せうう。主人笑くやうる。新
吐放屁とハ空年ゆ奇園楊の毛迄そ。
花咲男と号。是もの
て迄年の大笑。

読の小戯場を撒塗も一趣ハ此放屁論と詳
なり。今年まさ来女原も生くこも福平と
名ある。扨此者の動のよとなるよ。父ハ大和の
国吉野の々の猟人。佐之源とらる者なり
ぐっ年来多の猪猿を報セ一罪亡ことや
ありん。近来の者あ人とらの会を四國ゟ礼
よ出るよ。彼殺生の報ハや。伊豫の雲よ到セ。

佐之源生まるぐう猿と成く林の中へ逃
のくれバ二人の連ハあきれ果。ゼ非ろくほよ
なりう。今幸渕の一ッ岩の佐之源来
食。ほをめうてて猿とならんの二人乃
連ゟハ逃れとも。お猿のあるれバ生て来
うんのとハけるの因縁なりさても人ハまよ
なり。脛福平よ此訳を語れバ。一ト方ならぬ

歎なんどもうそべき拠もあらざれバせめて
父が現世未来高生をうの苦患を免るゝ為
とて。一切経を修書せんとこゝろざす
時。亦物を残ざるなく尽。本銭のみ
ぬ金をうけをユまーて。いつとなく庭とゝ
みき。親孝行の奇特や。あまねの屋機と
江戸中の大評判。まよりも流布はう
はや

ける花咲男。今を盛と庭を咲やけ。花の香
匂ひ渡り。再江戸中の大評判。
名ふく。富女ふの
ある〳〵なき者なし。お竹とゝ糸と連てもう
をあづ〳〵ふ人も団おくるふ
福平ゞ志と感じ。依二ゝ勝が返礼。
ま力を合さん為。空也上人の鉢扣。菜箒

ようこそ付。前念佛を執向して。六字を
飽よ称うまぜ。うまひざ。うまい陀佛うまひざ
よう拵らの聲唱前。却前世の之者ハ仲茲
幸四良、そもそも。まこのき老ハ時み
大谷友右衛門。昌貧市川雷十良ハ来姉
よういらの親父ら。そう痴年ハ分ひざ。若い
陀佛岩陀と賣歩ル。大浮判お彩り

も。皆福平ら老彩のそ不。古今まれる
屋柄者と誤れバ。新男一圓干香必ぞ。
ふ名誤のそとるもの外いうも彼撒家氣
漢ら年面ててハ屋彩ーうど。武家女
不ヽ出されども。千ら浴ハ聲もるく臭もるく
今ハ世るま油もそ。当時法方ろて評判
のふうハ。茲んざ霊寶弥ーき拍。十月乃

胎内千里の車。庫あれど猿ま曲馬
あり。鶯花雪が弁説で逃げ。友世細世が力みハ。巴。坂額千鯉
抜く禮まある。源水が獨楽ハ魂あり。一功
ぐらく。鶯哥が芳野ハイロなの人、そこみたがり如
一。彩〻助ハ一分まよ骨なり。ぐう突張男
ハみ腰今猿まもやうん。大魚呑れど大蛇骨

出。俳子細工牽絲偶偏右をうろく歩〻く
田舎通者の目と悦ばめ。乞姫ハ名まてうあ。
人魚ハ人をちやうそ。子供角觝の丸組
ハ。河津殿ど傍をうつ。鶴鷲相撲の務屓
まハ。魯の季桓子拳を握る。るの玄合狗の
蚤。仕込まハ別教まハ順ふ。芝をそへバ人並
人別帳まハ付みがら。畜生まる男まる至芸の

者ハんまて己ぶ恥とそよべー。あるが中ゑと
険竿の大勇り。ホ揣れ江が笑ホハ弘法大師
をを捨。韓退之阪と流て。ムザントビ
體ハ我脊車のせんるがごく。ヨホ称くるがご
一年経ハ。又雑を天へ弱ると疑ふ。これらをして
弥ーともりべくれ。何そや古き屁撒をこと
くまた地倍。推古屁の論輝をゆまハ事

も彼をれさてるようを大の出る理をゆんと
ことをこうよ。以の外の屁あいーらい。さてそ
我らを屁の如くそひのやと。まゑみかつく
立仮を。手討残門調を和らげ。多れきてる
ようぶの出る理をゆんとお名あれども一天
四海引くるもての大論まて一気一夕に論ずが上
能く近く器と立て教んる。扨ーて屁論ハ

及(オヨ)び男(ナン)。佛法(ブッポウ)は地(チ)水火風空(スイクヮフウクウ)と五輪(ゴリン)といへる。
空(クウ)と風(フウ)とは雖用(スイヨウ)そへつまる所(トコロ)は水火(スイクヮ)と氣(キ)とは天地(テンチ)に滿(ミチ)くる名(ナ)。固人(コジン)
の體中(タイチウ)に備(ソナヘ)れば。四(ヨツ)の物(モノ)體中(タイチウ)にあり出(イヅ)る
時(トキ)の合物(ガフブツ)を養(フン)と名(ナ)く又穀(コク)の肥(コヤシ)となる。これ
人(ヒト)の體(カラダ)より土(ツチ)の出(イヅ)るゆへあるぞや又小便(セウベン)と
汗(アセ)とは。體中(タイチウ)水(スイ)を出(イダ)すなり。よく立(タ)て

ハ呼吸(コキフ)下(シタ)より立(タ)てハ屁(ヘ)と出(イヅ)るなり。あるゞ中(ナカ)より萬物造化(バンブツゾウクヮ)
の元(モト)そ。その本(モト)を火(クヮ)と号(ナヅ)く。日(ヒ)と火(クヮ)の倭訓(ワクン)同(オナ)じ。天地自然(テンチシゼン)
と号(ナヅ)く。日(ヒ)と火(クヮ)の倭訓(ワクン)同(オナ)じ。天地自然(テンチシゼン)
の元(モト)なり。されバ神(カミ)より天照大神(アマテラスオホミカミ)。佛(ホトケ)は大日(ダイニチ)
如來(ニョライ)。金剛界(コンガウカイ)と地上(チジヤウ)をさし胎藏界(タイザウカイ)と
地下(チゲ)とさす。十方億土(ジッパウオクド)秘量壽佛(ヒリャウジュブツ)及(オヨ)び照自己(ヘンゼウジコ)

本来空。秘密も悟道も引るめて。日輪
まぢかれバ。古ハ皆な體の
氷るなり。その赤をはぢるなく。魚鼈を育
もべき道み。彼らがあくまで甚なみれバ
戯場の出来ざるまでかるを知る
時ハ。業と成も汗とるも。屁の屁るも火の勢
も。同一體の小天地。固怪ま思うざれとる。

よくまき出ハ老とるなり怪
まで。それきてるよ
みよんを。又ハ関扉ま
顔ま峰でとる寿も
も甘も呑ぜ就お
人ハ。問ま骨ありて
分量智恵の和をも

えよ。にる」をる治人者や。日清月清ようそ。
雑劇（ザツゲキ）の藝者同様よんばそぐ音ー。り
天北のり。火祭（ヒマツリ）そるき抱るくその火の発
と目あよ喰（クヒ）をれ。ありきてるわどそるき笹巴。

神武（ジンム）帝（テイ）より今年まで。二千四百三十九年発
で生くく入る人を数かぞへまれぞそ
又吾　日本

太勢の人るのぺ。まうざるのと抱（コラ）んと。毒と
破り祿と棒（ステ）ユまを持ち。今孤を賢（ツイヤ）ー。
ムシ生やるものひろれきてるのみよあぐそまで
係産よのき毒動をんぺ生するもホおうぐそ。
世ちのみよ脊（ホネ）をおばぱ。世よで山師と嫌れる。
嵐捕（アラシトラ）る猫（ネコ）ハ爪（ツメ）をかくるとそ。まうおうくん
鼻（ハナ）き面（ツラ）な奴（ヤツ）よ。都（カヅ）くく山師ハいうもを人ハ

蟻(ギ)を引く山の引く代と云て。赤八山と似ることゝて
蚤の跡とん。那(ナヅ)なと云(ク)ふ。加(タ)へバあん餅(モチ)を
あんころ餅の赤小豆の如し。まゝて今とゝろく
とゝろく。云までの彩力(サイリヨク)を一場(ジヤウ)と今泥斗(ニカリ)み疑
て。一ツは腰鼠(ムグラモチ)ゝるゝ如(ヤウ)な穀又ゝ蚕。生成(ナマヅメ)ハもぐて
も。握(ニギ)ゝる今ゝ弱きゞ。泥(ドロ)舟ゝある通ゝ。仮(カリ)よも
ゝ云ゝと窟(クツ)ゝへゞ。人ハ無(ナ)れまゝ言れ。美(ビ)

ごろつもあるまゞく。近ひ例ハ忘れきてる故。
お正月ハ銭をあへんせねバ出ぬハ。押へ付てる
大今。豪拵綿羊るんどの例もあると。さてもる
着も多けれど。陰陽の理をおもてねと勿論
るゝと合点せゞ。されバそろハ飴をとく売
とせんるのとゝひ。盗賊ハ錠を明んるのとゝよ。
それ程のう筈。まゐハ綿羊を買ふく

て耻をきる。綿羊のまおも氣毒なり。世よ
ある人ハ浅をホーグリ。浅なき者ハ悪説をもう。
渇してハ盗泉の水を飲ぢ。乏しくて南瓜お
唐茄子ぞいふまよ今ハ祇と。貴くあるよ
浅間なり。夫。惣惟。骨をおく磯ぞハ。汗莫
く屁切そ。古今多数の大だけ。屁の中為
ようようをれきてるとへれき

てるとをかへ。あも三國福平ゲ丈子となり
故々をかこぞりて四國猫軒と改名一。屁撒
気云の仲間へ入。羊連中と余念なくて。屁の
穴のあらん限り撒りまくるなり
臭ひ若の匂ひ撒りやさるべー
と。屁撒て後の屁をおめ。まゞあみなく
いのくれぞ。新墨あまれさ郡まて。角

放屁論後編 終

追加

去ル申の年。菅原攣と云ル名ある好人ありし狩猟を好ひしその逸歌若干首を左に写す。

用ゐれバ嵐のごとし上矢竿をおそれ。用ゐざれバ虎皮褌も地獄の古着と詬るとかや。

昔の唐人の寤語。実に実に可らざるより。甚だよく可らざる快人情あれバ。虚言と雖も追徐せず

をいふなれバ。人當世をあるくなといふ。抑此當世を
いふもの今ぞうの事にあらず。祝鮨が筏宵て
宋朝の義士あるくぞんぜ難手今の世よ見れん
ようあれバ昔ようみをかの當世ぶりにて。八百屋
が助六ハ拍子延が助六なども。人今更のやうな
ふもの尚世をあるくぞうるハ
あるまいとも。万人の前より一人有眼の人を
そなて。仮よも迂濶輩といそがれバはぁあるま
ハ拵ものうさ。それとも人と生ー冥加の為
國恩を報んるのをあてんを学バ世人称
して山師といへ。ヲ戯ぐ曰。智恵ある者智恵
なき者を誅よハる歟といひ。たゞみと唯。あるう
とうひ者ら坊といへども。智恵なき者智恵
あるものと濁よハ。ま何を用ることあるぞ。ど

山吹くと譟るより外なし。造化の理を考へんづる多き事柄ぶんを尽さば。人毒を存ずる者と号。草澤閭巷人の下細工人のおよんだ。已よ賢き者のむざ書る淫猥や小説う尚ほバ。通ぜ為に火院布ぶれきてるの。自笑其頽が類とんだ。やう夜明と十把一からげ奇物をユめバの竹田迄ぶ。のごひをもて変化物の如きまをもぐぶ。我

八兵及ぼるぐう　日本の益をふさんまをふのこ。或ハ適大法侯のまあぐれども。救免ぶしく良狗烹られるもあぐ。細工負ふ人金。嗚呼尾ひろの命を活ろく営よ。尚時物しき内賊まて。其糟をうひを浅を廿ちんとふひ附をふも

卯雲(バウウン)来室(ムロ)君(クン)より尻尾(ホ)を見出されぬ。おろ〳〵する
お物語
醉(エフ)て寝(ネ)る〳〵小百(クシ)姓の如き者(ハゲ)あり
仕出(シダ)しの掃(クシ)除もさせる筈なり
実(ケニ)や已(ヨレ)をあざ〳〵ぎるよ伸(ノビル)
とさんざんバ。氏(シ)を合(ヤ)さんてバりまハ百と出
ちるて。固(モトヨリオレ)已を知るぎる人よ見せるよハあるぞ。

嵐(アラシ)吾八が曰。アヽ氣(キ)が遠(ナガ)くなるそふな。
かゝる時分と千里(リ)乃こ所をものや
伯樂(バクラク)もあしふひもの
風來山人誌

跋

風来山人放屁論後編をひり出して
序をしるさしめて尾つゐに跋せむと
放屁字典よ曰屁ブヽウノ反音ブウ
去聲よ發しく音スウ論語よ所謂
舞雩よ風ぶく詠じく帰らんとふ
これ皇をとよ欲此書や始よハ

狂言倚語のすべて屁を放り中八萬物
乃理を掌よ攄り屁の極意をときまえ
令みて尻とをぶむ讀者その
臭を逐ひ高き升る階様屁の一助
ともんと云尓

葛西土民姑射杜老嚢脇の
中よ書ける

癈陰隠逸傳自叙

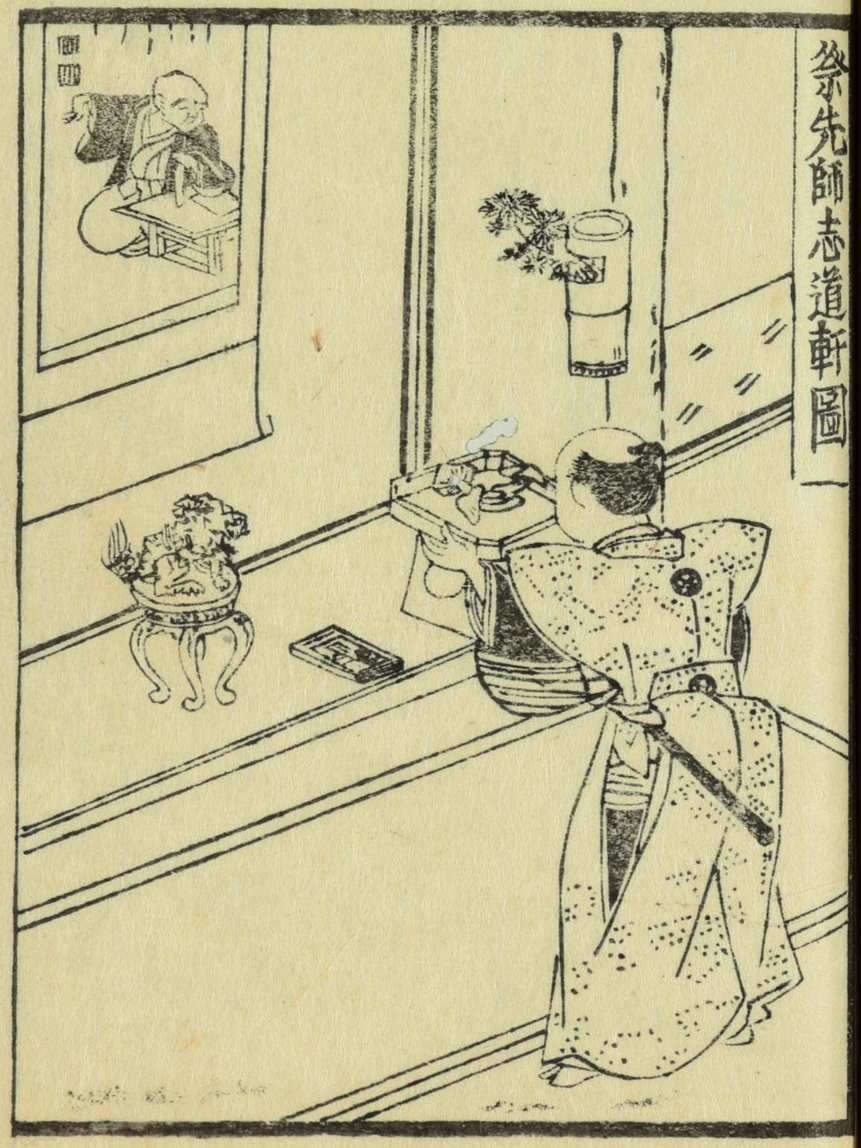
童誦曰如似做出事來做得
大則個。十寧樂盧舍那佛
屁眼則個。愉快哉言也可
以俾慷慨之士。中靈勃起。

若夫女媧煉五色之石而
補二蒼一百餘度等莖漢高揮
三尺之勢而破四百數羊
小戸可レ謂做得大矣然時
有先後勢有小大故其所
爲或異而其所志則一也
嗚呼吾勢之逸群世無容
之淫婦數說如激戸赦焉
易曰括レ嚢无咎无譽與其
起而無所施不如廢之愈

故痊云爾。（二十丁ウラト）

明和五年春三

月風來山人題（ス）悟道軒（ニ）



參先師志道軒圖（一）

贊曰

六寸許(ばかり)の軀(き)、十丈の舌(ホト)、
説虚空究竟(くきやう)、盲(メシヒ)に乞一下の睛(ひとみ)、明婆婆(しやば)の境、
哂人(わらふひと)の釈迦(アモトガラ)一世の人、
嘸(さぞ)、
配蘭浮屍(しかばね)、永滅(とこしなへにめつ)の鵞血(がけつ)、聞(きこ)ゆ一屁(ひとへ)の香、
悟(さとり)に捺落滅(ならくめつ)の名禅師撰

瘡陰(おえまら)逸僧

乞ふ日月の如き人ぉ去眼あるぺ。地ぉ払(はら)
蕈(たけ)の如き胯(また)ぉ彼物あり。甚(はなはだ)ぉ屁(へ)と
いひ。母ぉ指(さ)ぉ嗚ぃ陽(ほと)ぉ
裏(つつ)ぉ陰(ほと)ぁり陰陽相激(げき)し世中に
宵(よひ)を生じて時(とき)物を産(うむ)に因て字を

屈子云ふ。椎髻を指似すものひ。又珠寶を
呼。形結りて甚だ名を慶羅と呼び。
号を毛襦莞久と称し。また飛菟と
亦名く。葛葉か角の布を織り
詠ずる疑らくは古物ならん。
鞜ふひまき屐をいひ。屐をひ後世
ふひ玉莖といふ。肉莖を呼。中実と合け。
俗語ふて難巳といひ。紅毛ふて呂宋
ふ男なる人でふ什物のつくざるか
甚形状大なるあり。小なるの差長さ
のう短きあり。或ハ多或ハ扁。又多
豊下ひから白勢二の孔ハ正後莖ひり

本慶羅あれハ麁筋勞の事癰癤
まらあれハ事皮あるを種のれがすばけ
あるを。氣痰ある。上及あれば
下及あり。甚さ疲困ざるをハ人の面
の黑ろめくまれバ。ふいひ垂ぐるも
のなり。甚業あり。發。

舜禹湯文武周公孔孟の慶羅骨
ハ訪書神樂の為をこめ玉。釈尊
賢虚の火ぐるまくハ上天下唯
我獨尊と金の佰の勢屋を光らせ。
子孫拾神代ゟ慶羅の流れ只
まを事ろくをこそ。人の業ふ

なりて下りて魔羅の仏自縛まで川上
の衆師をそゝのかし終に衆の謀魔羅
を。日本武尊の劍と悪く難敵一
まひしようを。はや劍魔羅奥そこれで
とて。奥蕃の宝劍と号て末世の
なぐさめの戒とす。或将門関東ふ

誅魔羅を怒せ。純友四国かのく
る事をなし。負任家任武衡家衡
が毛贅ハ頼義義家の長柄かきる
されハ和すり文ことを第九年とらひ。
後攻を後三年とゝ保元平治豈の
昔を燃てゝ己が陰茎て己が肛竭をかう。

一宗家の嫡八幡宮精の沈をみそそぎ陰毛の
抹をもそそぐ。範頼の義経の勢骨か
あらそひ滅されのみならず大なる朝の
勢を政子の陰戸の弱かるを時政か
御中を沿て絶之代を怨通ることを
沙ず。北條九代のち勢か三鏡を生下

なるも亢銭の臨高時の下痢とまる。
彩画を利の勢を鏡も摘溪川か割勢
しまも。後醍醐天皇猿舞禅尼
志ま〻ま。南北あ氏の勢とみる
足利十五代の長陰茎信永武智の
早勢甚ふ癒てまり。大岡の大勢自機

朝鮮人の糞門を穿て逃むとするを
勃ハ痛るとも速やかに甚手強屋
蜜柑皮芳が今ホ
さら敷ホ追つゞく亦ホ一ツの磨羅
ツの甚勃を殺すホ夫就中の毛
泳ぎホさも青蛙ホ骨ホして白

陰茎のホ落ホ又袋を噛ひ
かゝりて儘ホ
るゝ紀時ホ首をたゝいて麺筋のゝく。
婁ハホ腸ホ強きホ金鍼のホく
熟ホとホ火箱のホ〳〵。目ホく〳〵して
見。耳ホくして聞。也の廣ホ入く

遂ぐ。豚のせ活きを変化こさふやうり
浮世の話ざ
ほ参るを思つて。世多の常ふへ紀
七ツ半ど自然と笈仲楽毅う勢骨ふ比す。
千里の馬太郎を捨てふ世ふ伯楽

ちうちうれば孔子の碧い牡ふ会ひ
かや。古ふの二多紀魚のこハ多く山林ふ
痛るふへぐし。彼画ふの我果て才を
めるそのよふ。吉の降う自ふ
ふてこれ。魔誕の怒日ふ生ふみ
ふ残て去る紀を増る

附い栄え、称誉を世に恨み送猜
妻樹蒲壷を携たるなり。さて私ハ大
隠ハ市中に隠。或ハ謁ハ山林に隠ト云
隠。陶潜明ハ五柳に隠。東方朔ハ
金馬門に隠。切成名遂て功退ハ湖水
辺の一茅の代未聞の芭蕉が労るなり。

等慧を帷幕の内にめぐらし。天機
を千里のかなたに察ハ古今稀歩の張良が玉
机にて。蓍をもて。その吉凶を説ハ。いにしへの
陰陽を家がらとして張毛を刺て勝ハ
旅宿郷の亀のうらの立ところ

各異なるといへども。勝るところを
比ふ。おのおの尺蠖の屈むの信ずるあり。
劣者のまぬがるゝ能はざるあり。俄
ある者八合を飲み一升易く。渇する者八
更に一斗飲み一升更に難きを
更ざるの人数をこらゆる法あり。

甚志ある時ハ順で止ることあれバ
葭町堺町ハ古へ
後渕伝説源氏の牆壁を世ゝ動ざる後
これり
書蜀葵根を貴ぶ葡萄の土民のごとく
渡し。玄米品川に遊人で落花
ぐれも流るゝ情あり。玉つとかて

せんずり手淫をかたく。世の念のもだし勢のある強き
そうそうたつ者すべて癆をかへ。
癆毒すべて起。おきる
精液もとやうの枝の葉て茂るまで活る。世を永続の
但事ハ。両ハ。牡と腦をの領手境。
ありのとうとうかなる金陰の裏を店ハ業勢癆ーー。

世をおくるこれをもて癆陰陽逸
ゆるハ
まことに立ずも多くは
おろかなるものハ
玉茎道軒門人
皓道軒誌

癍陰隱逸傳終

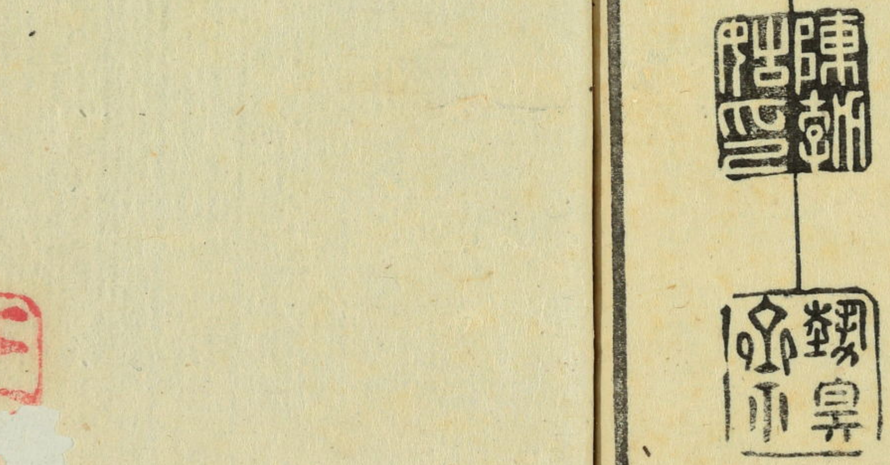
癍陰陰逸傳跋

癍陰先生既陰遂矣
大古山ノ數ニテ曰ク余ノ人皆
起ヲエクリ吾獨不義ニシテ癍ノ
且ツケウスル穴於ニ吾ヲシテ浮ルノ吾ヲ免スル

甚勢（マシヲヲ）一ノ失（ナキ）ニ於（ミタマリコ）兄湯至（ヤテ）一
蚤（ソウ）レ癢（カユシ）ト爪（ツメ）ヲ掻（カク）ニ大（オホ）イニ当（アタラト）ラ
惜（イ）ト其（ソノ）甚（ハナハ）ダ癢（カユキ）ヲ忘（ワスレ）テ而（シテ）甚（ハナハ）ダ
不（サラ）ニ起（ヨユテ）ヌ一レ爪（ツメ）ヲ未（イマダ）レ也（ラ）嗚呼（アヽ）勢（マラ）
骨（ホネ）之強（ツヨキ）ヲ亀（カリ）毛（ノケ）ノ稜（タカ）ノ高（タカキ）モ不（ラ）レ

逢（ホント）ニ一レ丈（タケ）ノ牆（カキ）ニ一而（シテ）窺（ウカヽヒ）ニ一レ室（イヘ）ヲ者（モノ）ハ
乎（ヨリ）寡（スクナシ）ニ一已（ヤム）ヲ其（ソノ）ヲ所（トコロ）ヲ以（ユエン）ナリ一也（ニ）歟（カ）
癢（カユキ）ノ処（トコロ）ヲ掻（カク）ニ一而（シテ）得（エ）ニ一レ之（コレヲ）時（トキ）ノ快（コヽロヨキ）ヲ
庶（カラ）ノ幾（ネカハ）ク之（コレヲ）唐（モロコシ）人（ビト）ノ一ニ曰（イハ）ク孔子（コウシ）モ不（ラ）レ逢（アハ）
時（トキ）ニ乎（ヲ）ト（ケルモ）ニ一ニ掻（カク）ニ一レ痒（カユキ）ヲ法（ノリ）ヲ先生（センセイ）ニ一ニ云（イヘリ）ト

跋

皇和明和戊子春二月

後學陳朝(チヨウ)勃(ホツ)姑書(コヲ)于勢(セイ)陽(ヨウ)臭齋(シウサイ)